



第3回シマフクロウ保護活動支援金贈呈の対象先が決定

令和3年12月21日に令和3年度第2回理事会が開催されました。その議題の中で、本年度の事業計画の柱であるシマフクロウの保護活動に携わっておられる方々に対する支援について審議を行い、令和4年2月を目標に次のとおり支援金の贈呈を行うことを決定しました。

支援金贈呈対象先

山本 純郎氏 (根室市)

：第1回からの継続支援

早矢仕 有子氏 (札幌市)

：第1回からの継続支援

竹中 健氏 (札幌市)

：第1回からの継続支援

齊藤 慶輔氏 (釧路市)

：第1回からの継続支援

田村 康教氏 (釧路町)

：第1回からの継続支援

高田 令子氏 (根室市)

：第1回からの継続支援

公益財団法人日本野鳥の会 (苫小牧市)

：今年度新規支援

支援金額は、本年8月に実施したクラウドファンディングの結果も踏まえて総額150万円になる予定です。今回新規支援先の「公益財団法人日本野鳥の会」様は、現在、『森の神・シマフクロウ 次の世代へと命をつなぐ森をまもりたい』という支援キャンペーン

NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局

を展開中です。シマフクロウの数を回復させ、絶滅の危機から救い出すためには数少ない生息候補地をいち早く見つけ出し、保全することが急務です。そして見つけ出した候補地は野鳥保護区として保全していかなければなりません。当会としても、このような保護活動に少しでも貢献したいという観点から今回選定させていただきました。

最近の新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、前年度に引き続き、今回も支援金贈呈式や記念講演会等の開催に代えて、受贈者の皆様から日頃の取組や今後の活動予定などについて、当会のホームページや機関誌紙面で発表していただくことを予定しています。

事務局より

国分北海道株式会社様より道産酒「島泉」シリーズの売上金の一部をご寄付いただきました

平成31年から3年連続でご寄付をいただいております食品卸道内大手の国分北海道株式会社様から、今年も総額343,550円のご寄付をいただくこととなり、12月15日(水)にその目録贈呈式が行われました。

当日、国分北海道株式会社様の諏訪社長様より寄付目録を頂戴し、当会村田副理事長から、シマフクロウ保護活動の支援のため大切に使用させていただく旨のお礼の言葉をお伝えしました。同社が販売する道産酒「島泉」シリーズ売上金の一部を当会にご寄付いただく仕組みで、これからも続けてお取組みいただけることになっています。

対象商品

●島泉 十勝ブランデー 熟成30年

●島泉 十勝ブランデー 原酒

●島泉 十勝ブランデー 原酒 33年熟成

●島泉 甘熟スイート 21年

●島泉 甘熟スイート ホワイト

●島泉 梅 32年



ご寄付対象売上数 2,187本



国分北海道株式会社では、「島泉」シリーズとして、どさんこプラザや札幌市内デパート、千歳空港各売店のほか、主要ホテルの飲食店などでも提供されていますので、ぜひご購入、ご賞味のほどお願いいたします。

事務局便り

● 本号では、生息地でシマフクロウの保護、研究に尽力されている6名の方と公益財団法人日本野鳥の会様への支援金贈呈決定のお知らせと長年、山本純郎氏の下で保護・飼育されてきた雌のシマフクロウ「ドン」の訃報に接しましたので、「ドン」のシマフクロウ研究・保護への大きな功績を偲び、会員の皆様にご紹介するために山本純郎氏に特別寄稿をお願いしました。

●賛助会員・寄付を募集しています

当会の活動趣旨にご賛同いただける法人・個人の皆さまの賛助会員としての参加と寄付を募集しています。当会のホームページからも手続きが可能となっておりますので、ぜひご覧ください。

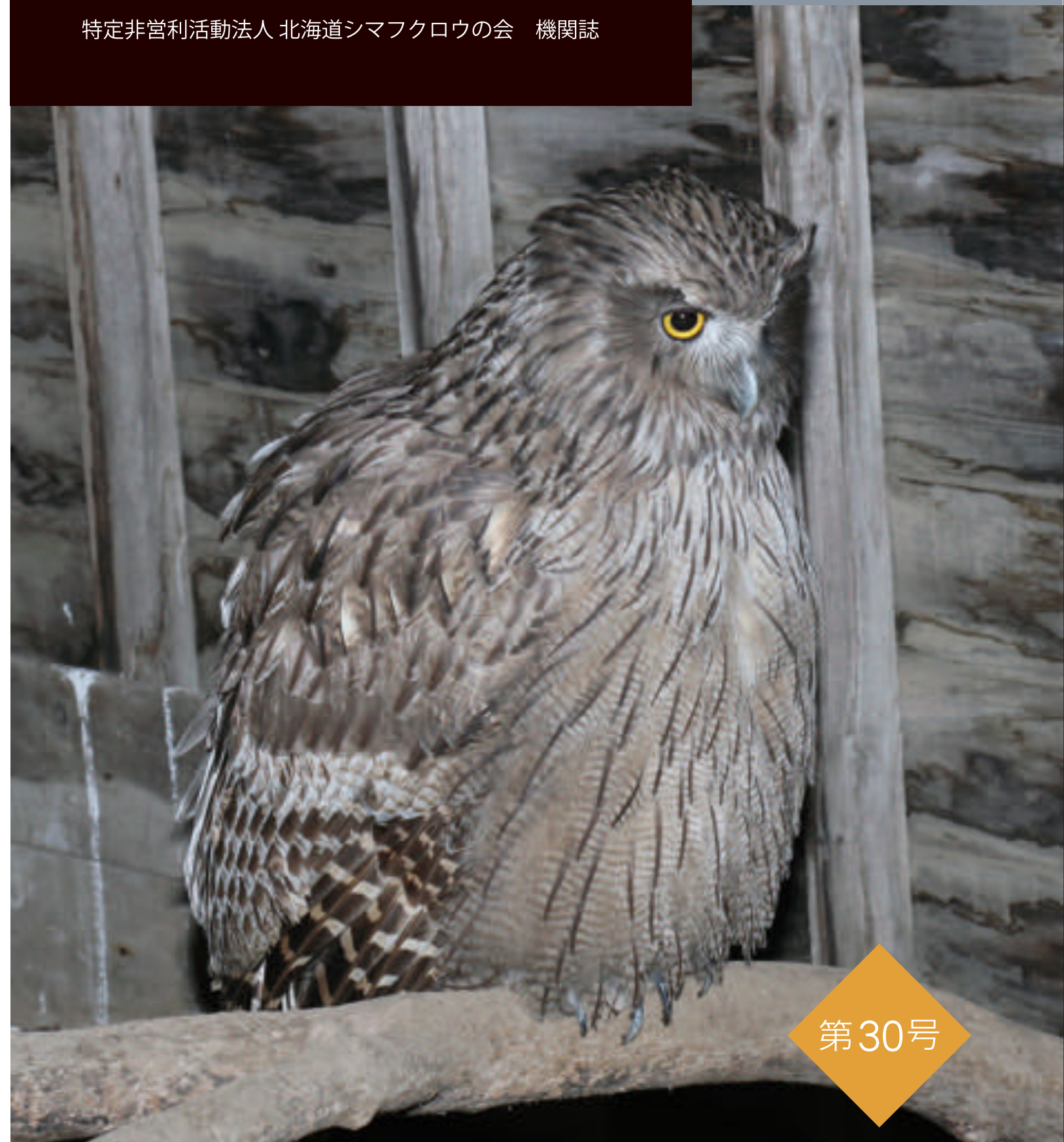
【認定 NPO 法人北海道シマフクロウの会 事務局】(担当: 米谷・久保木)

〒060-8640 札幌市中央区大通西3丁目11番地 北洋ビル6階 (株)北海道二十一世紀総合研究所内 TEL 011-231-8681 FAX 011-231-8683

URL: <https://hokkaido-shimafukurou.org/> E-mail: info@hokkaido-shimafukurou.org

北海道 シマフクロウ通信

特定非営利活動法人 北海道シマフクロウの会 機関誌



第30号

写真: 山本純郎



シマフクロウのドン

会報5号で紹介しましたシマフクロウ(ドン)が24歳で亡くなりました。2021年10月17日のことです。24歳というとシマフクロウでは老齢期に入ると思いますが、野生では30歳という個体もあります。私も70歳を超え、せめてドンが亡くなるまでは、生きていないといけません。最近をよく考えるようになってきました。それがまさかこんなに早くやって来るとは…。家族同然でした。娘がケージ内を掃除していると、遊ぼうと言わんばかりに箒を引っ張り掃除の邪魔をしていました。ドンが餌をせがむので、家内が給餌すると魚を受け取るとプリッと背を向けて食べていました。多分声のトーンが幼鳥と似ていたので、餌を横取りされると思ったのでしょうか。私や娘が給餌しても、決して背を向けることはありませんでした。

収容しているフクロウには識別のために一応名前を付けます。しかし決して呼びかけることはありませんでした。よく名前は何ですかと訊かれ、一応(ドン)ですと答えていましたが、それがいつの間にかみんながそう呼ぶようになりました。環境省の人まで(ドンちゃん)と呼んでいました。そんなことから私も、ドンと呼びかけるようになっていました。

呼ばば必ず「ウッ ウッ」と2声で返してきました。亡くなる日の朝も返事をくれました。

会報5号では省略していましたが、人工孵化を始めるきっかけとなったことは、ある湖でPCBが検出されました。その湖に面した森に生息していたシマフクロウの卵が、孵化しなくなったことです。ほぼ毎年雛を巣立ちさせていたのですが、4年連続孵化しなくなりました。なぜ孵化しないのか調べてみようということになったのです。飼育個体がいれば時間をとられ、思うように動かせません。またニワトリや鶉の孵化は経験がありましたが、フクロウ類は初めてでした。当時釧路動物園も人工孵化に取り組んでおり、それが良い刺激にもなりました。

1994年の3月に採卵したのが最初です。ふ卵器も借りものです。結果、運よく孵化には成功しましたが、2ヵ月余りで死亡しました。診断は先天性異常と言われました。一方巣に残した1卵は孵化しましたが、孵化後40数日で死亡しました。死因は免疫不全でした。やはりPCBの影響なのか? それで次年度、その次の年も行ないましたが、孵化まで至りませんでした。卵は発達する

シマフクロウ保護・研究家 山本純郎

のですが、孵化近くになると死ごもりしてしまいました。1997年は2回も孵化しなかったので採卵を少し迷っている時、1卵は巣内で産んだのですが、もう1卵は巣の近くの雪上で産んでいました。これを見てやはりやろうと思い採卵したわけですが、これが最後の様な気がしていました。

卵は嘴打ちから2日程かかりましたが、無事孵化し順調に成長しました。成鳥になってからは毎年産卵して孵らぬ卵を抱いていました。

ドンの野生復帰は、これまでに2度チャンスがあったのですが、放鳥直前に野生の雌が飛来し断念。もう一つは放鳥前に雄が姿を消してしまいました。多分この雄は事故に遭ったと思われました。

私は野生のフクロウを収容したら、必ずそのフクロウと約束を交わします。それは「絶対に野生に帰す」ということです。ドンとは「野生に帰す」もしくは「伴侶を見つける」ということでした。しかしこの二つの約束はどちらも守ることが出来ませんでした。おまけにドンに仮親を2回もさせてしまいました。1回目は2008年2卵、2回目は2019年1卵。いずれも立派に成長し2羽は野外復帰を果たしました。そして繁殖にも成功し



右・ドン
左・成鳥した若鳥
(2021.6 2年目)

ています。このような功績(人から見れば)が認められ2015年 World Owl Hall of Fameで Lady Glay'l Award を頂きました。(会報5号)

1998年からは無事孵化し成長したことから、人工孵化は中止しました。野生の親鳥はその後3年間は毎年産卵、抱卵を行っていましたが、一度も孵化することなく、雌がいなくなり、やがて雄も姿を消して行きました。おそらく老齢だったのだと思います。私がこの番の観察を始めてすでに20年が経過しています。

そんなことからドンの血は絶やしてはいけなと、自分なりに精一杯やりました。でも結局は、何一つとして約束を果たすことが出来ず、ドンには申し訳ない気持ちだけです。

ドンの死因はまだ特定されていません。ただ腎臓に大きな腫瘍(多発性嚢胞腎)ができており、それがもとで衰弱、貧血などを起こし、赤血球からヘモプロテウ



ドンと私



雛と一緒にドン 雛は2019年4月生まれで孵化後3週間。

ドンと娘

ス属の原虫(ヌカカが媒介性)が検出されました。この原虫は他のシマフクロウからも報告されており、死に追いやっています。

*嘴打ち・・雛が持つ卵歯で卵の内側から卵膜を破って殻にヒビを入れること。鳴き声を聞くことができます。

*卵歯・・嘴の先端部分についた卵を割るための骨質の突起物 孵化後1週間ほどで取れます。

*死ごもり・・卵の発育状態で孵化直前まで順調に発育していても、直前に発育が停止すること。原因はビタミンD不足、卵殻からカルシウムの摂取が出来ない、また病原菌によるものなど多々あります。